

特集／朝日町ご当地スイーツ探訪
町政スポット／「ふるさと納税」の推進へ特典制度、町総合観光案内所
「あさひ旅のココロ館」がオープン ほか
カメラさんぽ／第28回朝日川溪流まつり
まちの話題／第45回全日本少年剣道錬成大会、「ドキドキ探検隊」・
「いもがわ少年教室」合同カヌー遊び ほか

猛暑でうまみが凝縮 今年を上々の出来です
出荷に向け作業を行う生産者の堀誠さん（舟渡）
（8月7日／舟渡地内）

広報

あさひまち

2010年 8月号
No. 645

朝日町 ご当地 スイーツ 探訪

「食べる」ことが地域おこしにつながっている

全国的にローカル情報誌やフリーペーパーなどの創刊・普及が目覚ましい昨今、山形県内においても、地域に密着したテーマを取り上げた情報が人気を集めています。中でも、「食」については特に人々の関心が高く、情報も多様化。近年は地域ならではのおいしい食べ物を意味する「ご当地グルメ」という言葉も生まれ、食べ物が地域おこしにつながっています。また、それらを求めてあちこちへ出掛けることがレジャーとして定着しています。

このように、「食」の情報の多様化・広域化が進む一方で、忘れてはならないのが、地元朝日町の素材。当町にもいろいろな「食」があり、それらの多くが様々な魅力を兼ね備えています。

意外と知られていない 町のお菓子

その中で、今回注目するのが町にある「お菓子」(最近では若い世代を中心に、「スイーツ」と呼ぶのが一般的です)。現在、朝日町菓子組合(渡辺金二組合長)に加入する町内の菓子店は、中部、西部地区にそれぞれ2店舗ずつ、北部地区に1店舗の合計5店舗がありますが、町に住んでいる方でも5店舗すべてに足を運んだことがあるのは少数のようです。多くの方の場合、日頃から利用するお店は決まっています、そのお店以外となると、人気商品でも意外と知られていないのが現状のようです。そこで町広報では「朝日町ご当地スイーツ探訪」と題し、このほど町菓子組合に加入する町内の菓子店5店舗を訪問。それぞれのお店の歴史とおすめ商品などをお伺いしました。

ワインようかん

町の産業課(当時)から「特産品のワインを使ったお菓子を！」との要望を受け、現店主の渡辺金二さんが昭和47年に考案。試作から完成まで約2年を要したという。発売を開始して間もなく、有名女性誌で紹介されたことを機に、全国各地から注文が殺到。今でも根強いファンからの発送依頼を受けている。

透明感が涼しさを演出する商品。冷やして食べると一段とおいしく、凍らせるとまた違った味わいとなる。



(1個 70円)

玉屋菓子店(本町)



店主の渡辺金二さん(左)と奥さんの宏子さん(右)

大江町に住んでいた祖先が朝日町に移住し、文政9年(1826年)に現在の場所で創業。菓子店としては、店主の金二さんで8代目になるが、店は長らく酒まんじゅうが主

だったという。

金二さんは菓子職人一筋で、祖先から代々受け継がれてきた技術を頼りに、180年以上続く店の「のれん」を守ってきた。

「玉屋」という名前は創業当時のものという。店内には、「創業文政9年」の文言が入った家紋の「のれん」があり、老舗の香りを漂わせている。

Asahi自然観のオープンと同時に生まれた商品。朝日町特産の白ワインに漬けて焼きあげたブランデー風味のりんごケーキ。

1個でおおよそ大人6人分とボリュームたっぷり。



まるっとりんご
(1個 950円)

ワインようかんをヒントに考案した商品。梅ならではの甘酸っぱい味が特徴。

ワインようかんと同様、冷やしておいしい一品。ぜひ夏にどうぞ。



梅ようかん
(1個 100円)

朝日りんごっこ

町特産品のりんごにちなんだお菓子として、3代目の現店主・布施寛さんが昭和55年に考案。主に土産物として喜ばれ、お買い求めいただく数も最も多い。

実は、りんごがバランス良く中央に配置されるように同じものを2つ重ねている。よく見ると中央で分かれているのがわかるが、この方法を思いつくまでには、かなりの時間を要したという。当初は箱入りだったが、中身が見えるよう、約7年前現在の包装に一新した。



(1個 126円)



笹ゆべし
(1枚にゆべし2個で 105円)

昔ながらの製法で作られる添加物なしのゆべし。笹やクルミも町内のものを使用している

このほか餡入りのものあり、いずれも特にお年寄りからの人気が高い。



シュークリーム
(1個 136円)

もともとあったシュークリームに、裕一さんが天然のバニラ「バニラビーンズ」を取り入れ、味わいが増した。今では子どもからお年寄りまで幅広い年齢層から愛されている商品。

永勝堂菓子店(大町)



店主の布施寛さん(右)と4代目の裕一さん(左)

明治30年、現在の場所で創業。現店主の布施寛さんは3代目。店名は初代の「勝五郎」氏が自らの名前から一字とってつけたという。

長年、寛さんによって支えられてきた店を担うのは、4代目で娘婿の裕一さん。自身も菓子一筋の職人で、平成5年の結婚以来、奥さんの由紀子さんとともに洋菓子を担当している。

バレンタインデーシーズンには、毎年手作りのトリュフチョコ(12種類)を販売。そのまろやかな大人の味わいに多くの方々が魅了されている。

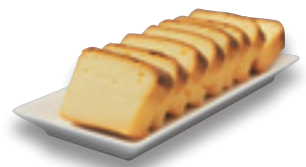


(1 個 65 円)



風神最中

(1 個 105 円)



ワインケーキ

(1 本 1,260 円)

元祖 みそまんじゅう

初代から80年以上にわたって受け継がれている伝統の味。温かさの残る出来立ての味を味わっていただくため、作り置きはせず、売れ行きを見ながら、作り足しを繰り返しているという。

「元祖みそまんじゅう」のネーミングは2代目の都一郎さんが昭和40年代に命名したもの。

松谷屋菓子店(大谷一)



現店主・白田和好さんの祖父が大正11年に現在の場所で創業。創業者の母親の実家が菓子店を営んでいたことが縁。

店主の白田和好さん(左)と前店主の都一郎さん(右) 目の前には山交バスの停留所があるなど、店が位置するのは昔から人通りの多い場所。和好さんも「商売をする上で、条件には恵まれましたね」と話す。

昭和 63 年に大手パンメーカーのチェーン店となったのを機に、パンや一般食料品などの取扱いも始め、現在は雑誌や文房具、生活雑貨も扱う。子どもからお年寄りまでいろいろな方々が訪れるその雰囲気は、まるで「コンビニ」を併設した菓子店。和好さんは「誰もが楽しく買い物できるお店を目指した結果ですね」と微笑む。



(1 個 84 円)



ふわふわロールケーキ

(1 個 200 円)



オーストリッチプリン

(1 個 273 円)

地元産の新鮮な卵を使用したロールケーキ。ふわふわのスポンジとまろやかな味わいが特徴。店で3本の指に入る人気商品で、ファンも多い。

町で飼育されているダチョウにちなんで生まれた商品。文字通りダチョウの卵を使っており、濃厚でコクのある味が特徴。

卵が入荷したときだけ作られる、いわばまぼろしの商品。

いもがわ 五百川 みそまんじゅう

現店主の白田光郎さんが、実家の松谷屋で学んだ技術を生かし誕生した商品。松谷屋の「元祖」と同様、創業当時の看板商品で、その人気は長年不動の一位。

あえて違いを出すために、「元祖」よりも一回り大きくしているという。

西松屋菓子店(常盤)



店主の白田光郎さん(左)と2代目の光博さん(右) 松谷屋(大谷)からの「のれん分け」により、昭和31年(1956年)太郎地区で創業。現店主の白田光郎さんは松谷屋の前店主・白田都一郎さんの実弟。店の名前は「西の松谷屋」が由来。

光郎さんは昭和 30 年から 1 年間、東京の製菓専門学校で洋菓子を勉強。帰郷して数年後、発電所工事のため都会からの作業員でにぎわっていた太郎に出店。そこで商売を軌道に乗せ、昭和 34 年に現在の場所へ移転した。

現在は常盤地内の本店のほか、役場前のショッピングセンター「ヒグチ」内にも出店。昔ながらの和菓子とともに、2代目の光博さんが手掛ける彩り豊かな洋菓子が所狭しと並んでいる。



(1 枚 110 円)

しんちゃん クッキー

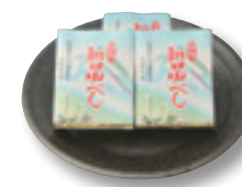
近所の方々に「しんちゃん」の愛称で親しまれている2代目の鈴木新一さんが作るクッキー。味はチョコチップ、ウォナッツ(クルミ)、セサミ(ゴマ)、オニオン(タマネギ)の4種類。甘さ控えめ、サクサクの触感が特徴。

ちなみに、「しんちゃんクッキー」のネーミングと、新一さんの似顔絵シールは、新一さんが友人からの提案を受けて取り入れたものとのこと。



ブランデーケーキ (1 個 137 円)

ブランデーの高級感のある味わいが幅広い年齢層に好評。日持ちが良いことも人気の理由の一つ。



朝日ゆべし (1 個 84 円)

創業以来、長らく愛されてきた商品の一つ。ちょっとした手土産として重宝されている。

新光堂菓子舗 (常盤)



店主の鈴木幸次郎さん(左)と2代目の新一さん(右) 知人の縁により、新庄市内の菓子店に弟子入りしていた現店主の鈴木幸次郎さんが同店からの「のれん分け」で昭和39年常盤地内に創業。約20年ほど前に現在の場所に移転した。

各種お菓子のほか、夏場は現在もかき氷を扱っており、暑い日が続く今年は特ににぎわっている。



↑内装のデザインを手掛けたのは地元の(株)朝日相扶製作所。最上川の流れと朝日連峰の自然をイメージしています。

←入口前にある「i (アイ)」の表示は「information (情報)」の頭文字。万国共通で「案内所」を意味しています。

7月23日、町が宮宿大町地内で整備を進めてきた「蔵のひろば」に、町総合観光案内所「あさひ旅のココロ館」がオープンしました。

「蔵のひろば」は、宮宿中央通り商店街の活性化と町全体のにぎわいの創出を目的に整備されたもので、2棟の蔵と周辺の広場の総称。敷地面積は約2260㎡で、県道宮宿浮島線の宮宿中央通りに面しています。

この日オープンした「あさひ旅のココロ館」は、敷地内に建っていた蔵を改修し利用したもので、リニューアル後の面積は延べ約106㎡。町総合観光案内所として、年中無休（年末年始除く）で町観光協会のスタッフが常駐し、観光情報の提供などを行うほか、ギャラリースペースには、町民の方の創作品などを展示しています。

近所の方の話によれば、この蔵は江戸時代に建てられたもので、所有者は醤油の醸造業を営んでいたそう。築年数は140年を超えますが、柱や梁は昔ながらの面影を残しています。皆さんもぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

江戸時代に建てられた蔵を改修 町総合観光案内所「あさひ旅のココロ館」がオープン

りんご、ワイン、米のいずれかを進呈します

「ふるさと納税」の推進へ特典制度

平成20年5月にスタートした「ふるさと納税」制度は、生まれ育った市町村など、個人が思い入れのある特定の自治体に対し現金の寄付を行うもの。寄付を行うと、現在住んでいる自治体で住民税の控除を受けることができ、税制面で優遇されます。

町では平成20年9月に関係する条例を制定し、寄付金の募集を開始して以来、今年3月末日まで9件、62万円の志をいただきました。しかし、県内35市町村を見てみると、この件数、金額はともに少ない方から3番目（県総合政策局市町村課まとめ、3月末日現在）で、南陽市（540件、1485万円）、白鷹町（435件、793万円）、金山町（254件、665万円）などに比べ、この制度を有効に活用できていない状況にあります。

町は、他市町村に比べて寄付金が伸び悩んできた要因を「周知不足」とする一方、多くの市町村で取り入れている寄付者への「特典」制度がこれまでなかったことも一因に挙げられています。この特典制度とは、寄付への謝礼として、地域の特産品などを贈呈するもので、寄付への「お得感」を高めるとともに、ふるさととのつながりを深めるというメリットがあります。県によれば、6月末日現在で制度を取り入れている市町村は23に上っています。

朝日町でも今年度からこれを取り入れ、4月1日以降に寄付いただいた方に対しては、町広報誌のほか、りんご、ワイン、米のいずれかを進呈（※）。今後は本制度をPRしながらふるさと納税を推進していきます。



寄付いただいた方には「特典」を進呈

無袋ふじ5kg、朝日町ワイン2本詰めセット、朝日町産はえぬき「あさひ清流美人」5kgの中から1点お選びいただけます。

なお、本誌にパンフレットを折り込んでいますので、町民の皆様からご親戚、縁者の方へPRしていただければ幸いです。

※：特典の対象は1万円以上ご寄付いただいた方のみとさせていただきます。ご了承ください。

「楽しむ」+「住む」=「たのすむ」

情報誌で朝日町らしい生活スタイルを提案し、定住施策をPR

町はこのほど朝日町らしい生活スタイルを提案する情報誌「たのすむ」を発行しました。

これは、現在町が取り組んでいる定住施策のPRを目的に制作されたもの。誌面では朝日町らしいゆったりした日常の暮らし方を紹介しながら、特に20代から40代の子育て世代にとって魅力ある「朝日町暮らし」を提案しています。

今後は同級会等での配布、転出者への送付などを予定。定住、そして交流人口の増加に結びつけたい考えです。



なりわい 業を創る

「都市と農山村が互いの生活を支え合う関係」の構築を掲げ、仙台圏との交流を進める「朝日町産業創造推進機構」の取り組みを連載で紹介していきます。



目玉プロジェクト「放牧養豚」がスタート

朝日町産業創造推進機構（代表Ⅱ朝日町長）では、起業を志す人たちに新商品開発に伴う支援を行っています。中でも、自然を活かし動物の本能や生理面に着目した「放牧養豚」は、同機構が目玉として進めるプロジェクトの一つ。文字通り放牧して豚を肥育するというものですが、7月29日早朝、大暮山鹿路^{すがろ}地内で試験的に放牧が始まり、約50キ口まで育った豚9頭が牧場に放されました。

放牧の効果も簡単に説明すると、がっちりした豚舎の建設が必要なく初期投資が極力抑えられること。そして、何よりも豚のストレスを回避させることで肉質が向上するというものです。地元養豚農家の後継者である布施正徳さん（本町）が中心となり、肉質向上の仕組みや臭い対策、町の特産であるりんごやワインの絞りかすを利用した自給飼料の開発など、遊休農地を利用した循環型農業への取り組みが、東北大学や山形大学などの研究機関と生協「あいコープみやぎ」の支援を受け進行しています。

家族で



「魚、とったぞ〜」



「ここにはいるかな？」



「僕もとったぞ〜」



つかまえた魚はその場で調理し...



売店コーナーも大忙し



かき氷もおいしい！



塩焼きにして...



遊び疲れた...



あとリヌマサトの方々による「石をぞめよう イッシン」



ガブリ！

涼
と
漁
を
求
め
る

真夏の風物詩

仲間で



1500 人がつかみどりに挑む

第	28	回
朝	日	川
溪	カメラ さんぽ	流
ま	つ	り

8月1日、第28回朝日川溪流まつりが朝日川河川公園（立木）でにぎやかに開催され、グループや家族連れなど約1500人が魚のつかみどりに挑みました。

この日のために放流されたのはイワナ・ヤマメ・ニジマス約6000匹。朝日川をそのまま利用して作られた約300mの会場で、参加者は腰まで浸かりながら石の下に潜む魚を探し出し、朝日町の大自然を満喫しました。

おさかな
はっけん!!





第2分団第4部



第1分団第3部

消防協会西村山支部操法審査会（8月1日／創遊館駐車場）

市町別で準優勝に相当する日消旗を獲得

消防団員のポンプ操法技術の向上を目的に、毎年開催されている消防協会西村山支部操法審査会が8月1日創遊館で行われました。

朝日町からは自動車ポンプ操法の部に第2分団第4部（常盤、長

沼、夏草／海藤繁幸部長）、小型ポンプ操法の部に1の3（和合／近衛智之部長）が出場。部門別で2の4が準優勝、1の3が優良賞を獲得し、市町別で準優勝に相当する日消旗を獲得しました。

■第2分団第4部	4番員 村山文也（常盤）	1番員 菅井伸昌（沼向）
指揮者 海藤繁幸（常盤）	補欠 阿部隆浩（夏草）	2番員 佐藤剛史（宿）
1番員 樋口 孝（常盤）	補欠 佐竹俊彦（常盤）	3番員 鈴木真誠（宿）
2番員 長岡昭博（常盤）	■第1分団第3部	補欠 鈴木敏明（大隅）
3番員 阿部春樹（常盤）	指揮者 佐藤貴志（沼向）	補欠 鈴木光貴（大隅）



水上からの景色を満喫

「ドキドキ探検隊」「いもがわ少年教室」合同カヌー遊び（7月25日／馬神ため池）

すぐにコツをマスターし、楽しく乗れた

7月25日、「ドキドキ探検隊」と「いもがわ少年教室」合同のカヌー遊び体験教室が、馬神ため池（大谷）で行われました。

両者はそれぞれ北部・西部地区で地域の小学生を対象に、昔ながらの遊びや自然体験の場を提供する団体。これまでも同じような活動はあったものの、合同開催は今回が初めてで、3年生から6年生まで28人

の小学生が参加しました。子どもたちは長さ約3mの細長いゴムボートに2人～3人ずつ分かれて乗り、水上からの景色を満喫。参加した長岡真生くん（太郎二）は、「初めてだったけど、すぐにコツをマスターできました。自在に艇を操れるところがおもしろかったです」と感想を語っていました。



ダチョウの卵を使った灯りがまつりの雰囲気を演出した

あさひ保育園夏まつり（7月16日／あさひ保育園）

「ともだち」「なかよし」を3神社で誓う

7月16日あさひ保育園夏まつりが行われ、年長組園児52人と保護者が夏の夕べを楽しみました。

あさひ保育園では、統合初年度の今年、新たな友人同士が仲良く生活できるよう様々な取り組みを実施しています。この日は旧保育園時代に慣れ親しんだ「豊龍神社」「春日神社」「白山神社」に足を運び、「ともだち」「なかよし」など

を約束。まつり本番では約束の証として手渡された木札を下げ、歌や踊りを披露しました。

今回の夏まつりでは、保護者で（株）山形朝日オーストリッチ産業センターに勤務する熊谷良作さん（前田沢）が、ダチョウの卵（殻）を提供。園児たちの似顔絵が描かれた卵の中にもろうそくが灯され、まつりの雰囲気を演出しました。



暑い日はプールが一番①
（8月7日／町民プール）

まちの話題

ここで紹介した情報以外にも、ホームページ内「まちの写真館」には写真がいっぱい。見てね！



暑い日はプールが一番②
（8月6日／宮宿小）

日本武道館で大あばれ 第45回全日本少年剣道錬成大会（7月26日／日本武道館）



日本武道館で堂々たる試合を演じた朝日町の少年剣士たち

539チーム中ベスト8 宮宿・大谷混成チーム

7月26日、日本武道館を会場に行われた第45回全日本少年剣道錬成大会の小学生団体の部で、大谷剣道スポ少がベスト8進出の快挙

を収めました。

この大会は、全日本剣道道場連盟が毎年開催しているもので、全国の少年剣士にとって最高峰の大

会。今年は県内16チームをはじめ、全国から539チームが参加しました。

朝日町からは宮宿・大谷の両スポ少混成による2チームが出場。このうち、大谷剣道スポ少チームが山形県勢初となるベスト8進出を果たしたほか、宮宿剣道スポ少チームも3回戦で昨年の優勝チームを撃破し、ブロック3位入賞（ベスト64に相当）を果たしました。

武道の聖地「日本武道館」でも物怖じすることなく、自分の力を存分に発揮した当町の少年剣士たち。全国に一躍両スポ少、そして朝日町の名を轟かせました。

大谷小5年生が花笠まつりに参加（8月6日／山形市内）



大勢の人の前で踊って、気持ちよかった！

大谷小学校5年生13人とその家族など35人が8月6日、同校の親

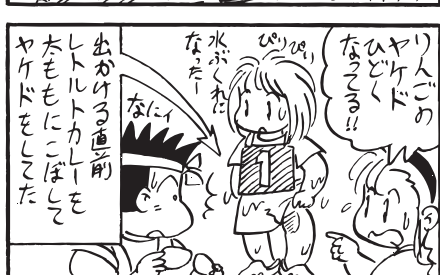
子学年行事として「花笠まつり」のパレードに参加しました。

この日まで約1ヵ月間、週3日練習を重ねてきた参加者。毎年風神祭で花笠踊りを披露している大谷第6区の志藤正利さんを講師に、1日2時間汗だくになりながら踊りを習得しました。

本番では、午後6時20分に山形市十日町をスタート。ほとんどの人が初めてでしたが、一人のリタイヤもなく、全員が文翔館までの約1.2キロを1時間20分かけて踊りきりました。

ある一人は「大勢の人の前で踊って気持ちよかったです」と充実した表情を浮かべていました。

となりの リンゴさん



各種大会の成績

■平成22年度山形県中学校総合体育大会
(7月24日～25日 鶴岡市) ▼卓球競技
男子個人 準優勝 遠藤幹士(朝日町3年/舟渡) →東北大会出場
■第26回山形県小学生陸上競技大会(7月19日/天童市NDソフトスタジアム)
女子80mハードル 3位 五十嵐美輝(大谷小6年/栗木沢)

広報委員リレーエッセー

私的あさひまち生活

町広報委員が仕事や趣味、家庭などを通じて垣間見える朝日町の姿や日常の思いを自由に綴ります

先月号の町広報誌に、朝日中生徒が宮崎県の口蹄疫被害農家へ義援金を送った記事が掲載された。そして先日、宮崎県の非常事態宣言解除により口蹄疫は事実上終息したことが新聞の一面で報じられた。

私は町内で畜産の仕事をしている。恥ずかしながら口蹄疫なんていう病名は知らず、宮崎の一件は対岸の火事だった。ところが、現在は日本中のほとんどの人が知っているといつても過言ではない病名となり、のんび

りと構えてはいられなくなつた。県の指導などもあり、町内の牛豚を飼育する農家はどこでも消毒をはじめとする衛生管理に余念がない。

ニュースで、大切に育てた牛の殺処分を控えた農家のご夫婦が涙ながらにインタビューに応じていた映像を忘れられない。今後の生活を案ずる涙かもしれないが、それは手塩にかけて育てた牛が無益に殺されることに對する悲しみの涙だと思う。

話は変わるが、朝日町の畜産

農家も、大切に心をこめて牛や豚を育てているものの、残念ながら「朝日町産」としてスーパーなどに並んでいるのをあまり見ることがない。近年は盛んに「地産地消」が叫ばれているが、これは何も農産品に限ったことではない。近い将来、「朝日町産」の農産品がスーパーで買え、学校給食にも取り入れられることを夢見つつ、顔の見える「畜産業」にチャレンジしていきたいと思う。

「スワイン」



このほど沖縄県を会場に開催された全国高校総体(インターハイ)の男子バスケットボール競技に出場した今野駿さん(山形南高2年/大町)。身長は176センチと上背はないものの、抜群のシュートセンスと守備力を兼ね備え、2年生ながら名門山形南高校バスケット部のシューティングガードとしてチームの一翼を担っています。

10月に千葉県で開催される国体のメンバーにも選出されるなど、今や県を代表するプレーヤーの今野さん。バスケットに対する思いや今後の抱負について語っていただきました。

今・輝いて



山形南高バスケット部でインターハイ出場 国体メンバーにも選出 今野 駿 さん(大町)

年生にとつては最後の試合。2年生で出ている自分としては、ベンチやマネージャーとしてチームを支えている先輩のためにもっと活躍し、勝利すること恩返ししたかったですね。

国体の選抜メンバーは11人で、そのうち5人が山形南の選手。今月末には国体の前哨戦となる東北総体が控えていることもあり、負けた試合の翌々日には滞在中の沖縄で練習を始めました。この日は体育館を確保できず、練習場所になったのは屋外。容赦なく照りつける太陽のせいで負けた悔しさを改めて実感したような気がしました。国体ではこの悔しさをバネに、インターハイで成し得なかった「ベスト8」を目指し頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。

私の原点は「宮宿ミニバスケット」にあります。今後いろいろな大会で活躍することはもちろん、時間のあるときは、スポーツや中学校にもお伺いし、お世話になった方々に少しでも恩返ししたいと思っています。

町立図書館コーナー

「週間」

井上 ひさし 著



昭和21年、ハバロフスクの収容所。日本人捕虜・小松修吉は、若き日のレーニンの手紙を密かに入手する。しかしそれを狙うソ連極東赤軍が…。著者最後にして最高の長編小説。

「森のゆりか」

癒しと励ましの里山便り」柿崎 やす子 著



真室川町で夫とともに山林経営に携わること半世紀。村の暮らしはどう変貌したのか? ボランティアの場「百樹の森」での活動の様子を交えて、若い世代に伝えたいことを綴る。

----- お詫びと訂正 -----

広報あさひまち 2010 年 7 月号で次の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

▼17 頁 各種大会の成績
平成 22 年度西村山地区中学校陸上競技大会 女子 800 m、女子 2・3 年 1500 m
【訂正前】…白田恵里香 (さん)
【訂正後】…白田恵里華 (さん)

▼18 頁 平成 22 年度朝日町小学校水泳記録会 200 m リレー男子
【訂正前】…②宮宿 B (小野昂・和南城達輝・佐藤大翔)
【訂正後】…②宮宿 B (小野昂・和南城達輝・佐藤大翔・太竹克典)

▼19 頁 J A さがえ西村山が提供
サクランボ給食 6～7 行目
【訂正前】…今井賢一さん (新宿)
【訂正後】…今井賢一さん (前田沢)



■平成22年(2010年)
7月1日～7月31日届出

すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
大町	土居 夏輝 ^{なつき}	男	弘直・久美子
松原	松尾 陸斗 ^{りく}	男	洋明・由布子
栄町	成原 海翔 ^{かい}	男	亮・恵
栗木沢	佐竹 遙夜 ^{とうや}	男	隼人・瑠美



おしあわせに

志藤 義彦 ^(能中)	熊坂 祐佳 ^(山形市)
海野 師輝 ^(能中)	五十嵐 江利 ^(舟渡)
長岡 祐樹 ^(常盤)	柴田 瞳 ^(金山町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
八ッ沼	佐竹 たかの	孝幸
松原	長岡 トヨ子	寛治
助ノ巻	布施 はるよ	孫助
宿	大江 徳治	かつゑ
大暮山	鈴木 長十郎	義昭
大谷四	五十嵐 政己	春子
夏草	結城 高志	たけよ

掲載を希望しない方は
届け出の際にお申し付けください

人口と世帯数

●平成22年7月31日現在

人口	8,122人(－1)
男	4,023人(－2)
女	4,099人(+1)
世帯数	2,520世帯(+1)
	()内前月比

——7月中の異動——

出生	4人	転入	15人
死亡	8人	転出	12人

■QRコード付き案内看板が産直和合に設置



このほど、NPO法人町エコミュー
ジウム協会では産直和合にQRコー
ド付きの案内看板を設置しました。
QRコードとは、携帯電話のバー
コードリーダーで読み込むと、ホーム
ページにジャンプし、関連情報を簡
単に取得できる便利な機能で、朝日
連峰や榎平の棚田など町内16カ所の
見どころを紹介しています。ぜひ一
度お試しください。

■ふれあい荘15周年夏まつり



ふれあい荘の夏まつりが7月23日
行われました。
開所から15年を迎えたふれあい
荘。今まで多くの方々に利用され、
地域とともに歩んできました。
この日もボランティアとして「ふ
れあいの会」の皆さんや多数の中学
生が多方面で協力。入荘者と家族は
アトラクション等で楽しいひととき
を過ごしました。

■明治から昭和初期の生活文化遺産 五百川織の資料を展示



このほど昭和初期に町内で仕立て
られた「五百川織」や関連資料が阿
部宗一郎さん(常盤)から町に寄贈さ
れました。
これらは明治から昭和初期にかけ
て、町産業の中核をなしていた養蚕・
生糸産業を伝える貴重な品々。開発
センター1階に展示していますので、
ぜひご覧ください。(広報あさひまち
2009年11月号16～17頁参照)

祝 全国大会出場おめでとう！

■全国高等学校総合体育大会(7月28日～8月20日 沖縄県)

▼バスケットボール競技(男子)
今野 駿 選手 (山形南高校2年/大町)

▼バスケットボール競技(女子)
清野 真好 選手 (山形商業高2年/四ノ沢)
鈴木 智美 選手 (山形商業高1年/常盤)

▼剣道競技
今井 将真 選手 (酒田商業高3年/大町)
星野 裕太 選手 (米沢中央高3年/宇津野)

■全国高等学校定時制通信制体育大会(7月28日～8月20日 東京都)

▼卓球競技
阿部 智恵 選手 (霞城学園高2年/常盤)

▼バスケットボール競技
鈴木 優貴 選手 (霞城学園高1年/沼向)



過去最多 9銘柄が入賞 2010 国産ワインコンクール

▼各賞を受賞した9銘柄 左から

【銅賞】 2008 プレミアム ルージュ

【銅賞】 2009 アイスエッセンス 氷の妖精 白 ハーフ

【銅賞】 2009 アイスエッセンス 氷の妖精 ロゼ ハーフ

【銅賞】 2009 アイスエッセンス 氷の妖精 ロゼ

【銅賞】 2009 朝日町ワイン ロゼ

【銅賞】 2009 マスカットブラッシュ

【銅賞】 2009 スパークリング マスカットベリーA ロゼ

【銅賞】 2009 スパークリング バッカス 白

【奨励賞】 2008 限定蔵出し 無濾過秘蔵ワイン 赤

今年で8回目を迎えた同コンクールは、7月21
日から23日にかけて山梨県甲府市内のホテルで開
催。25道府県のワイナリー104社から690銘柄が
ノミネートされました。

審査員24人による厳正かつ公正な審査の結果、
全体の約半数にあたる345銘柄が入賞。朝日町ワイ
ンでは、銅賞に8銘柄、奨励賞に1銘柄が選出され、
過去最高の9銘柄が入賞を果たしました。

朝日町ワインの白田重明部長は「昨年まで3年連
続で獲得してきたロゼ部門の最優秀カテゴリー賞を
逃したのは残念ですが、過去最多の9銘柄入賞し、
全体の底上げができていますと感じます。来年はさら
にいい評価をいただけるよう研さんを重ね、今後の
仕込み作業に生かしたいと思います」と飛躍を誓っ
ていました。

「再会」は大きな喜び

ふるさとを思う気持ち それは精いっぱい生き方

町長歳時記
(57)

祭りの前になると、なぜかそ
わわわが急くような心持ちに
なります。ましてや幼い頃から
聞き慣れ親しんだお囃子の音な
ど聞こえて来るものなら、なお
さら気が急ぎじっとしているこ
とができなくなる。こんなこと
は誰しもが経験していることで
はないでしょうか。

夏休みに入り、八月の声も聞
かれ、朝早くからミンミンゼミ
の鳴く声を肌で感じる頃にな
ると、そろそろ旧の盆も近づき、
これもまた気の急く思いになっ
て来ます。お墓の草取り、仏間
の掃除、盆を迎える準備。そし
てまた、各家々によつては兄弟
親戚が帰って来る、そんな大忙
しの季節となります。

昔からそのように盆を迎えて
きた地元の人たちは、暑い暑い
と流れる汗を拭きながら、忙し
く家じゅうを走り回り、買い物
に行ったり、料理の支度をした

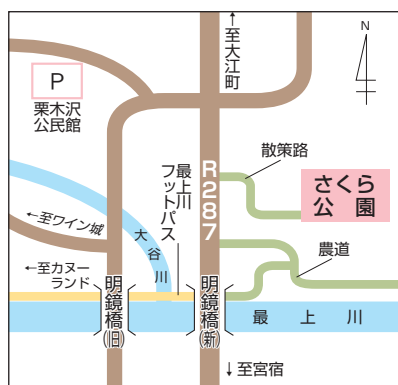
帰郷する人、迎える人、それ
ぞれ立場は違っても、ふるさ
とを思う気持ちは変わらない。
各々の地で、各々の立場で精
いっぱい生きていること、この
ことが、久しぶりの再会をさら
に大きな喜びに変えて行くので
はないでしょうか。

朝日町長 鈴木浩孝



「さくら公園」(栗木沢)からの眺望

今月のおすすめスポット



栗木沢区ではこのほど区内の「さくら公園」に、周辺の山々を案内する看板を設置しました。

この公園は明鏡橋北東の高台にあり、文字通り桜の木がシンボル。もともと区民以外にはあまり知られていない場所でしたが、数年前、区があずまやを整備し景観を整えて以来、新旧明鏡橋を見下ろすことができる場所として、多くの方が訪れるようになりました。現在ではカヌーランドや最上川フットパスと一体となり、散策コースを形成しています。

公園からは明鏡橋のほか、ワイン城や和合、大谷地区を一望でき、晴れた日には大朝日岳や月山、葉山を望むこともできます。皆さんもぜひ一度足を運びいただき、この景色をご堪能ください。



むしろ暑さを歓迎している様子でした。
話は変わって、特集コーナーでは、町のお菓子を紹介しています。取材した私自身、商品にしる、お店の歴史にしる、初めて見聞きするものが多く、とても楽しく取材させていただきました。
結果的に、今月号は表紙から特集まで5ページ分、甘い食べ物と並んでいます。たまにはこうした誌面もいかがでしょうか。

佐久間 淳

春夏秋冬 編集後記

いかがでしょうか
甘～い食べ物特集

今月号の表紙では、桃の生産農家の堀さんを紹介させていただきました。連日うだるような暑さが続くこの夏ですが、桃は今が旬の果物。生産者にとっては8月から9月が最も忙しい時期で、この猛暑の中でも、急ピッチで作業が進められています。
取材中、この暑さでさぞ大変な毎日ではなからうかと堀さんに伺ったところ、返ってきたのは予想に反する答え。聞けば、桃は暑ければ暑いほど甘みが増すそう。